

## JIFAS・念願のアワビの養殖に着手 世界トップクラスの生産システム



### この分野の第一人者3人と技術提携

オーストラリア（以後豪州と言う）は日本市場への天然アワビの最大輸出国。さらに養殖アワビの生産高も年々増加し、昨年は950トンまで増加。今年度はさらなる増加が見込まれる。

JIFASは長年アワビの陸上養殖について研究を続けてきたが、今回、養殖開始に必須条件である餌の開発、最高の養殖技術を導入するため、この分野の第一人者3人と技術提携の運びに至った。本年度に試験養殖、そして終了後に本格養殖を開始する。さらに豪州の高度な水産技術を持つ政府機関、サーディの協力を得て、さらなる技術開発も行っていく。



豪州の陸上養殖第一人者が3人揃った強力チーム誕生

左から、ウニ陸上養殖の第一人者/ジム・ポップ（本プロジェクトの豪州側総合コーディネータ）、アワビ、ウニの餌開発の第一人者/ジョエル・スキャンロン、革新的アワビ陸上養殖システムの考案者/ジム・モリソン。南オーストラリア海洋科学センター前で。（撮影者：JIFAS 理事小山）



### 販売価格を下げ、アワビの消費普及を図る

今まで日本でアワビの陸上養殖を観察すると、それぞれの養殖ファームで違いはあるものの、次の4点に集約される。

- ①餌の価格が高く、アワビによる餌の消費効率が悪い。  
（食べ残しの餌が多い）
- ②水槽の糞や食べ残しの掃除に時間がかかる。
- ③水槽内養殖密度が低く、養殖効率が悪い。  
早期成長のための工夫がなされていない。
- ④IT化が進んでいない。

以上の問題点を全て解決した陸上養殖の革新的システムを今回導入し、トータル養殖コストを大幅に下げることができる。販売価格を下げ、アワビの消費普及を図ることが可能に。

養殖アワビは輸入品が市場の牽引者になっており、JIFASが、本プロジェクト参加企業様と国産の安全・安心なアワビを提供できることを確信している。